



水田 恒一 議員

障害者福祉について

問

- 一・リハビリテーションの回数制限によって不利益を被る患者のために、関係機関に制限撤廃を訴えてほしい。
- 二・公共施設や道路のバリアフリー化と安全点検と改善を求める。
- 三・障害者用トイレの改善を。
- 四・ピクク病等の若年(期)認知症の実態と対策を求める。

答

中村市長

一・長期にわたり効果が明らかでない医療を漫然と続けることを抑制し、新たに発病初期には、必要なりハビリを一日二時間から三時間までに上限を緩和する等、早期にリハビリを行える体制を目指したものである。

脳血管疾患等では、六カ月

を経過すると、医療リハビリが受けられなくなるが、訪問リハビリや介護保険サービスのデイケアでのリハビリは受けられるので、他のサービスと切り替えていく等の方法がある。

今後、リハビリに関する相談や市民の声を聞いていねいに聞きながら対応していきたい。
二・随時リハビリ化等改修を行っているが、今後は伊予市障害福祉計画をもとに、関係課で連絡をとり、利用者の意見も取り入れ、点検及び改修の必要がある。

また、国道56号の四車線化に伴う横断時の安全については、伊予警察署からJ Aえひめ中央伊予サービスステーションの間に、横断施設として横断歩道を六カ所、歩道橋一カ所が設けられる予定である。高齢者や障害者、また、歩行者のだれもが安心してスムーズに移動できるよう視覚障害者用付加装置付信号等の設置を考慮すべきと考えている。

公共施設管理においても、常日頃から穴や段差等がないか点検を行い、危険箇所については順次改良していきたい。
三・現実には、障害者にとって安全に安心して使用できる

設備ばかりとはいえない。

最近では大腸疾患等の増加により、人工肛門や人工膀胱を造設されている障害者も増え、市内にはオストメイト用のトイレは町家に一カ所あるが、使用しづらい設備のようである。

国の障害者自立支援対策臨時特例交付金の交付決定に伴い、本市では十九年度に市内の公共施設に一カ所オストメイト用トイレの設置を検討している。その際には、障害者の意見も取り入れ、安心して外出できるよう障害者の自立や社会参加を一層促進したい。

四・伊予市は二層被保険者で、現在若年認知症で要介護認定者は五十五歳から六十四歳までの六人で、そのうち一人は入所、二人はグループホーム、三人は在宅でサービスを受けている。市内のデイサービス等は、まだまだ若年認知症の対応は十分とはいえないが、今後適切な個別計画をたて、支援していくよう指導したい。

まずは早期に確定診断を受け、早めの対策を立てることが必要だと考えている。十九年度は認知症対策に重点を置いた計画をたて、若年認知症についても実態を把握し地域包括

支援センターを中心に保健・医療・福祉・介護と連携をし、本人や家族への支援策を考えしていきたい。



JR内子駅のオストメイト障害者用トイレ

港南中学校校舎改築について

問

一・第二期工事の屋内運動場とプール整備はどうなっているか。

二・完成した港南中プールを地域社会にも開放し、市民の健康管理に役立ててはどうか。

答

上田教育長

二・超高齢化社会を迎えた今、複合的利用形態のプール設置は、中高年者の筋力や心肺機能を高め、健康維持や増進に貢献し、結果医療費などの軽減につながる、まさに一石二鳥の手法であると考えられる。しかし、市民、生徒間の安全、安心、施設構造、補助交付金、エコ、事業手法の問題等々懸念される事項は多岐にわたっており、その抽出と検証にはさらなる時間と労力が必要と考えている。

答

学校教育課長

一・港南中学校屋内運動場、プールは老朽化が著しく、危険性、修繕費等も年々増加しており、港南中学校第二期改修工事が伊予市総合計画実施計画に計上された。
改修時期は、平成二十年度から二十一年度前期に基本設計、実施設計を策定、平成二十一年度後期から二年余での竣工となっている。

その他の質問事項

- ・選挙の効率化について
- ・固定資産税の賦課誤りにについて
- ・パソコンの維持コスト削減について
- ・市職員の職場環境について